

チベタン・チルドレンズ・プロジェクト

2011年収支報告書



2011年運営の報告

2011年の運営を振り返り、解説を加えたいと思います。

1年間の主な出来事を下記にまとめてみました。

- 1月 スタッフ：クンチョク夫妻に
息子テンジンが誕生
- 6月 クンデ・ハウス引越し
- 8月 アムチ2度目の来日
- 11月 クンデ・ハウス専属スタッフ交代
- 12月 チベット予防医学室
施設の拡大と充実が完了



◆ クンデハウスの移転について

2011年は、昨年、一昨年に引き続き、突然の立ち退き勧告によりクンデ・ハウスの引越しがありました。多くの子どもを抱え、適した住環境を探することは本当に大変なことではあるのですが、今回も「仏教的に正しい動機に基づいて運営さえしていれば、ふさわしい環境が与えられるはず」と現地のスタッフたちが心から信じ、冷静に行動してくれました。その結果、これまで数年にわたって交渉しても借りることが叶わなかった大変よい物件を、5年の契約で借りることが出来ました。

床面積はこれまでの倍以上もある物件でしたので、賃料も格段に跳ね上りましたが、子ども達の生活環境の充実を最優先に考え、契約をいたしました。またこの契約に際して、賃料にこだわらずに物件を選ぶことが出来たのは、サポーターの皆様方の定

期的なご支援があるからです。この場をお借りいたしまして、心より皆様方の日々のご支援に、感謝申し上げます。

またこの広い物件への引越しに伴い、チベット予防医学室とクンデ・ハウスを1つの建物に統合することが出来ました。これまでクンデ・ハウスに程近い賃貸を自分で借りていたアムチも、同じ建物内に住むことが出来るようになりました。アムチとの同居は、大変子ども達によい影響を与えています。現在ではアムチは子ども達に「アパー・シェラップ（シェラップ父さん）」と呼ばれ、絶対の信頼と愛情で結びついています。チベタンコミュニティーから優秀なチベット伝統医師として、また慈悲深い人格者として尊敬されているアムチが「チベット人としてのるべき姿」の見本として教育してくれることは、子ども達にとって他では得がたい財産となっています。

◆ アムチの来日デモンストレーションについて

8月にアムチは2度目の来日を果たしました。来日の目的は、昨年に引き続き、チベット医学のデモンストレーションのためです。2日間にわたって、TCPサポーターとそのご家族、ご友人20名様にチベット医学のデモンストレーションをご体験いただきました。（医師法上の問題から「デモンストレーション」という表現を使用しておりますが、実際には通常チベット予防医学室でアムチが診察の際にやっている「脈診」をご体験頂きました。デモンストレーションの位置づけであるため、参加費もドネーションとさせて頂きました）

一昨年の診察以来、1年間にわたってチベタンハーブ（日本では薬事法に抵触しますので、便宜上ハーブと呼ぶことにしております。このように呼んでいますが、アムチが主にチベットから取り寄せたハーブを調合して製作した「薬」です）を飲み続けられたサポーターさんには体質の改善が見られ、チベット医学の真価をご体感いただけた事と思います。

またアムチの診断に感銘を受けられた大阪のサポーター様より、ぜひ2012年は大阪でもデモンストレーションの開催をとの希望を頂いております。そのほか、京都からも同じお申し出を頂いておりますので、次回の来日の際には、積極的に関西での開催も検討したいと思っております。

ここで改めてご報告いたしますが、アムチの来日に関する費用は、一切TCPの会計からは支出をしておりません。東京事務所の石川の夫が友人として招待ビザを取得し、来日の飛行機代は一昨年のチベタンハーブの売り上げから、アムチが自分で支払ったものです。今後もデモンストレーションご体験後、継続してチベタンハーブを希望されるサポーターさんには、ネパールのアムチから直接購入するという形でご提供を続け、ハーブ販売はTCP事業とは切り離した形とし、売り上げは全てアムチの収入とすることによって、本年の来日の飛行機代等も、ハーブの売り上げの積み立てでまかうこととしたいと考えております。

♦ クンデ・ハウス専属スタッフについて

11月にはクンデ・ハウス専属スタッフの交代がありました。8月にクンチョク夫妻から申し出があり、長い話し合いの結果、二人の自立したいという希望を尊重し、新しいスタッフを迎えることにしました。現在クンチョク夫妻は希望を叶え、ボダナートで裁縫の仕事についています。収入が激減したこともあり生活は困難な様子ですが、時々本人から電話での連絡があり、大変まじめに働いているとの事です。

新しく代表の推薦で迎えたスタッフは、チベット語の読み書きが出来ないなど不安な点もありましたが、それを補って余りあるまじめな働き振りと細やかな心遣いで、試用期間を経て2012年より本

採用となりました。採用になるまで皆様にはお知らせしないでいたのですが、新しいアマーは幼少の頃の病気が原因で、ほとんど聴力がありません。最初はどのようにコミュニケーションが取れるのかと心配しましたが、子ども達も工夫して会話をこなし、不自由なく運営できています。

クンデ・ハウス専属スタッフが交代することが子ども達に与える影響を大変心配しておりましたが、新しいスタッフとの相性もよく、またその愛情が並々ならぬものであることを子ども達も充分に感じているため、まったく問題のない状況です。

♦ チベット予防医学室について

2011年の運営目標であった「チベット予防医学室」の施設の拡大と診療内容の充実も達成することが出来ました。スペースが広くなったことによって、アムチの長らくの念願であった、薬湯施設2室を設けることが出来ました。また、診察スペースも充分に確保できましたので、針治療、カッピングなどの治療が他の患者さんを気にすることなく受診頂ける様になりました。施設の拡張は、ご支援下さる皆様のサポートがあって実現できたことであることを、アムチは大変に感謝しております。よりよい診察と治療に精進することで、皆様への御礼に代えさせていただくべく、アムチは張り切っております。



♦ クンデ・ハウスの子ども達について

クンデ・ハウスの子ども達の学習意欲は旺盛で、学校では大変よい成績を収め、表彰される児童が複数います。日本語にも興味をもつ子どもも多く、その中でも特に真剣に日本語を習得したいと考えている又矢は、日本人補習校への通学（毎週土曜日のみ開校さ

れる日本人子息のための学校）を強く希望し、通学の許可を申請しました。しかしながら残念なことに、やはり日本人ではないということが最大の判断材料となり、許可は下りませんでした。



8月にはネパール国内で大規模に開催された絵画展で、イシが最優秀賞、ダワが優秀賞を受賞しました。この受賞により、様々なスキルに恵まれながらも何かと遠慮をして前に出ることの苦手だったイシが、自信を得て積極性を見せるようになりました。クンデ・ハウスやナムギャルスクールなどのチベット人コミュニティーにとどまらない活動の枠組みに積極的に子ども達を参加させ、多くの可能性を引き出す切っ掛けにしたいと考えています。今後もそれぞれが才能と興味を伸ばしてゆくことが出来る環境を整えるため、スタッフは惜しみなく努力をしてゆきたいと思っています。

◆ トレーニングセンターについて

トレーニングセンターについては昨年の運営報告でもご報告させて頂きました通り、語学教室に関しては、その活動を無料の授業料で行うヒマラヤン・ランゲージスクールが我々に代わって充分にその機能を果たしてくれていると判断し、2011年末で完全に教室を閉じることにいたしました。

介護講習に関しては、現地統括責任者の加藤が介護福祉士免許を有し、講習に必要な物資も整えておりますので、希望者が

あればいつでも開講できる状況にありますので、こちらは生徒の要望があがるまで講座を休止いたします。

設立当初の予測と違うニーズや状況により、TCPの担うべき役割も変化せざるを得ない部分があることをご理解いただきたいと思います。常にチベット難民のニーズを拾い上げ、可能なことは速やかに実現することを目標としておりますので、今後も不要な部分は勇気をもって削減し、新たなニーズに対しては、有効で具体的な取り組みを行ってまいります。

◆ その他のご報告

その他のご報告として、2010年1月にチベットに帰国したドルジェですが（2011年にご入会されたサポーターさんは、この件について2010年2月5日付のブログをご参照ください）2011年はチベット人の亡命についてさらに状況的に厳しくなったこともあり、こちらからドルジェの帰ったゴンパに連絡を取ることは、どのような危険を相手にもたらすのか予測がつかないため、積極的には行っておりません。このため帰国後の足取りについては明確に把握できていない状況です。帰国後の様子がもたらされた場合は、随時サポーターの皆様にお知らせ致します。

2011年のネパールの物価は、手元の記録から計算すると、食料、エネルギーともに前年比約120%の上昇です。為替はTCPの1年間の円→ネパールルピーの換金レートの平均が、2010年は0.84に対して、2011年は0.88と円高を維持しています（ちなみに2009年の換金レートは0.73でした）。物価の上昇率が大きいため、実質的には為替の恩恵を実感するには至りませんでした。

2011年12月末現在のサポーター会員は、里親サポーター13名、月間サポーター24名、年間サポーター13名です。毎年会計の度に、里親サポーター様のサポート月額の引き下げを検討しておりますが、物価上昇などの不確定要素や、ネパール自体の政治の不安定さなどの危機要素を考え合わせると、現段階でサ

ポート金額を引き下げるに不安があり、2012年もこれまで同様の金額でのサポートをお願いしたいと考えております。月額の設定が高額であること、多くの里親さんがお住まいの日本では、東日本大震災の影響もあり経済的にこれまでと違った状況にある里親さんもいらっしゃるのではないかと思いますので、お支払いに関しては、個別にご相談いただければと思っております。

2011年は口座の残金不足から引き落としが出来ないサポーターさんが、これまでの年に比べて多くいらっしゃいました。都度ご連絡を差し上げておりますが、スムーズな入金にご協力をいただけましたら幸いです。

チベット予防医学室のアムチ、現地統括責任者の加藤ちあきに関しては、TCPより給与は支給しておりません。また東京事務所も、一切の活動を無償のボランティアで運営しております。これは各人の「TCPは一切が菩薩行」という仏教的な動機によるものです。

無償のスタッフも、運営自体には大きな責任を負って仕事をしておりますので、よりよい運営のためにも、ぜひ忌憚のないご意見をお寄せ下さい。TCPスタッフは社会福祉事業のプロではありませんので、至らない部分も多いと思います。今後もぜひ、皆様のご指導を賜りたいと思っております。



2012年の運営方針

2012年の運営は、収益を上げられる部門の充実に努めたいと思っております。具体的には

- ①チベット予防医学室の知名度をさらに上げ、患者数を増やす。
- ②代表による「チベット仏教入門」講座を開催する
- ③宿泊施設の運営を行う

①に関しては、新しく薬湯施設を設けたことにより、収益を上げることを目標としています。薬湯の施設を持つチベット医学の診療所はボダナートに3件あるのみで、スワヤンブナートでは唯一の施設となります。このため積極的に広報し、ご利用いただく患者様の数をさらに増やしたいと思っています。薬湯の料金は、ネパール在住者：Rs500、ネパール以外の在住者：Rs800（この金額については、その妥当性を2月に東京事務所の石川が現地で確認後に、最終決定いたします）とし、薬湯に使うハーブはアムチがドネーションとして個人的に負担し、収益は全てチベット予防医学室の売り上げとします。

②については近年、チベット仏教に興味を持つ外国人の増加により、本物のチベット仏教に触れたいとの要望が高いため、「チベット仏教入門（Introduction to Tibetan Buddhism）」としてTCP代表が月に一回程度、外国人を対象として、チベット仏教への興味と理解とご縁を深くして頂くための講座として開催を予定しております。開催時間は9:00～13:00で、講座の内容は「法話、帰依の誓願、チベット名の命名式、瞑想、質疑、チベタンランチ」を予定しております。上記は英語（または日本語）の翻訳を加藤ちあきが担当し、TCPの見晴らしのよい屋上を会場とします。講習料金はRs6,000の予定です。このうち講師料を代表に、通訳料を加藤に支払い、残りをTCPの収入といたします。この講座の受講者の募集を、ネパール国内の旅行代理店3店を通して行います。



③については、現在4室のツインルームの準備が整いました。広い建物に引越しをしたことで、未使用の部屋が発生したため、ご訪問いただきサポートー様にお泊り頂く施設を設けました。同時に収益を上げるために、条件付で一般の利用者を受け入れることと致しました。サポートー様のご宿泊は1泊3食込みお一人様800Rs（現在のレートで約760円）です。一般開放については、TCPに程近い場所に宗教学者の中沢新一さんもかつて修行をされていたボン教のお寺があり、こちらでの外国人修行者の受け入れを行います。その際の料金は1泊朝食付きRs800です。TCPの施設は子ども達の生活の場であることから、一般の宿泊者は現段階では、ボン教、チベット仏教の修行者に限定をさせて頂きます。

TCPが最終的に目標としているのは、チベット人が自らの伝統を守り育み、それらの深遠な観智を対外的に発信することによって多くの命の利益となり、そこから正当な対価を得て自立した生活を送ることです。そのための第一歩として、少しづつ自らの力で収益を上げてゆく方法を構築してゆきたいと思っています。



また本年度は、これまで私的な会社組織としてネパール政府に登録してきたTCPを、社会事業団（Foundation）として再登録する予定です。この登録に際して、代表を加藤ちあきからシェラップ・ギャルツェン（アムチ）に移管いたします。この再登録によって、税金が安くなり、またこれまで日本人である加藤が代表であることによって、何かと不要に受けていた突然の査察（難癖をつけて、賄賂を引き出すため）を避けられるなど、多くのメリットがあります。

業務内容の登録に、チベット仏教に関する事業、宿泊事業、海外との貿易事業など、今後新たに展開する事業と、将来的に取り組みが予想される部門を盛り込み、さらに広範囲な活動が可能な組織にしたいと思っています。設立当初からなるべく早い段階

で、名実共に代表者をチベット人にしたいと願ってきましたが、既にアムチが一生の仕事としてTCPを位置づけてくれていることに確信が持てたため、本年中に運営責任者を移管いたします。

これまでアムチとTCPとの関係を詳しくお話しする機会がなかった為、ここで少しその関係性についてご説明し、ご理解を頂きたいと思っています。

アムチであるシェラップ・ギャルツェンと加藤ちあきは、ミンドゥリンプロジェクト時代から15年にわたり親交があります。シェラップはもともと、チベットでアムチであった父親の下で医学を学び、活動していましたが、亡命後改めて、チベット曆医学大学を卒業し、



ネパールで開業しました。稀にしか過去のことを語りませんが、亡命後の苦労は筆舌に尽くしがたいもので、一時は病気のためネパールの山中のサナトリウムに隔離されたりもしました。サナトリウムというと聞こえはいいですが、実際は何の治療も行われず、医師も看護師もいない死を待つだけの隔離施設です。若かったアムチは体力もあり、友人の助けもあって奇跡的な回復を見せ、日常に戻ることが出来ました。

この苦しい体験が元になって、自己を犠牲にしてでも多くの命のために奉仕するアムチが誕生したのです。しかしあまりにも自己犠牲が過ぎ、お金のない人には無料で診療し、薬を処方するため、自分自身の生活が成り立たないほどでした。優秀であるにも関わらず常に生活が困窮し、それゆえによりチベット薬の原料も手に入れられず思うような医療活動が出来ていないことを知った加藤が、TCP 設立の際に声を掛けたのです。

TCP がアムチとコラボレーションした当初の目的は、優秀なアムチが生活の不安なく治療に専念するための枠組みを提供することでした。そのためにチベット予防医学室の賃料と設備費、光熱費を TCP が負担しアムチの活動を支援しました。

すぐにアムチの活動は軌道に乗り、翌年には 2500 人の患者さ

んにご利用頂き、うち 25% に対しては無料診療を実施するに至りました。アムチの優秀さは様々な評判を呼び、数回にわたって海外のチベタンコミュニティからヘッドハンティングがありました。給与さえ支払っていない TCP に居残ってもらえるとは思えないような、どれも魅力的な条件を備えた話でした。しかしながらアムチはこれまでの TCP サポーターさんとの交流から「日本人は他の民族とは違う敬意の感覚を持っている。だから信用できるし、これから先も日本人と一緒に活動したい。何よりも既に TCP は自分の人生をかけた仕事なのだ」と言っています。

過去 3 年間の運営で、アムチの生活は経済的に安定するようになりました。具体的に運営上のことをもう少し詳細にお話しすると、現在チベット医学予防室での診療の収益は、全てアムチの収入としています。診療を無料にするかどうかの裁量は全てアムチに任せ、無料診療の場合は、診察代金と処方薬はアムチの負担となります。チベット予防医学室での診察収入から、チベット薬の原料を買い、調製し販売し、現在では生活に困らないだけの利益を上げています。とは言うものの、やはり薬湯施設を自力で準備できるだけの資金力はアムチにはないため、より高度な治療を行うための設備投資は TCP が行っている現状です。

TCP とアムチは上記のようにお互いを尊敬し信頼した上に成り立った関係を保っており、このため TCP から給与は支払っておりませんし、アムチは信念とプライドがあるため、絶対に受け取りません。それゆえに、診察料に関しては現状では全てアムチの収入としておりました。しかしながら TCP サポーターの皆様のご寄付で新しく薬湯施設を建設して頂いたため、今後はその感謝の証として、アムチは薬湯施設で使用するハーブについては自らが負担（ドネーション）し、薬湯の収益を全て TCP の収入とします。

クンデ・ハウスの子ども達と共に暮らし、チベット語やお経の指導を日々請け負い、その貢献度は計り知れないアムチが、今後も TCP の活動を積極的に運営してもらうためにも、ここで運営責任者を移管し、新しい段階へと進んでゆきたいと思います。



最後にサポーターの皆様に、お願ひを申し上げます。たくさんの方々に現地をご訪問頂き、ありがとうございます。ご訪問の際には個別にお伝えをしておりますが、現地に持ち込む物資について必ずご相談ください。またご相談の上で決めたもの以外は、どのような些細なものでも決してお持込にならないでください。

現在クンデ・ハウスでは、アムチの提案により、以前にもまして一段と持込の物資や、子ども達へのプレゼントを厳しく規制させて

いただいております。「訪問者がある=何かもらえる」このような条件付けを、子ども達にさせないために、これまでいろいろとご協力ををお願いをしてきた TCP でしたが、やはり遠くから休暇をやりくりして、お越しいただくサポーターさんのご苦労を思うと、少しぐらい…とスタッフも気を緩めてしまう部分もあったのです。

しかし昨年の夏に、アムチが「もう一度きちんと気を引き締めて、物資の持込を厳しく制限すべき。クンデ・ハウスの子ども達は恵ま

れすぎている。それは決してよい結果を招かない」と提言したのを切っ掛けに、より一層、お持ちいただくものに関しては、失礼ながら厳しく制限をさせて頂いております。

サポートーの皆様には、何度も申し上げている事なのですが、まだまだ物質的に日本とは比較にならないネパールでは、日本から持ち込んだほんのちょっとしたもののがとても目を引いたりします。数年前から子どもの誘拐が頻発している事もあって、子ども達の安全を確保するためには、目立たぬ事、地元並みである事がとても大事なのです。

また、これはとても微妙な問題なのですが、何かことが起こったときに、そのストレスの矛先がマイナリティーや、弱い立場の人に向かう場合があります。TCP の現地施設は、加藤を除けば全員がチベット亡命者です。国を逃れてきて、ネパールに間借りさせていただいている身分です。パール国民にとっては、言わば「よそ者」なのです。ここ数年、ネパール国内の政治が混乱し物価も急上昇して、国民の生活は目に見て苦しくなっています。このような状況では、いくら寛容で、争いを好まない性格のネパールの人達であっても外国の支援で生活している難民の生活のほうが恵まれた暮らしをしていてはよい思いを抱かないのも、当然のことと言えます。

このような理由から、TCP は「地元並みであること」「地元の方々に受け入れていただくための活動」に力を入れています。

ご訪問いただく皆様には、いろいろなお土産を持って行って子ども達を喜ばせたいという思いがおありかと思うのですが、子ども達自身の安全のために、また支援慣れした難民を作らないためにも、持ち込み物資に関して事務局が厳しく規制をさせていただく事を、どうぞご理解を頂き、ご協力を頂きたくお願い申し上げます。子ども達の本当の喜びは、ただ一緒にそこで体を使って遊んでもらうことです。

何か目新しい特別な道具がないと遊べないのでなく、サポートー様がお帰りになった後でも、子ども達だけで同じことが出来る再現性のある遊び方を教えて頂きたいのです。

お菓子などのいわゆる消えモノや学習に関する道具も同様です。良かれと思ってお持込を頂いても、まったく環境も状況も違うネパールでは、それが思わぬ結果を招いたりします。「自分ひとりぐらい」あるいは「少しがらい」との思いで物資をお持ちいただきても、年間 10 組を越えるサポートーがご訪問下さる TCP では、それは 10 倍の物資になります。「事前に合意したもの意外は、一切持ち込まない」というルールを本年は徹底させていただきます。どうぞ、必ず事前にご相談を頂き、TCP の運営方針にご協力をお願ひいたします。

中国の温家宝首相は 1 月 14 日ネパールを公式訪問し、カトマンズでバタライ首相と会談しました。中国の首相がネパールを公式訪問するのは実に 11 年ぶりのことです。

バタライ首相は「中華人民共和国政府は中国全体を代表する唯一の合法政府であり、台湾とチベットは中国の不可分の領域である。またネパールは、中国の国家主権・国民統一・領域統合への努力を強く支持し、いかなる勢力にもネパール領域を反中国の活動や分離活動のために利用させることはない。」と述べました。「ネパール・中国友好年2012」なるものが採択され、友好に反する行為（とみなされるチベット人の亡命、チベット人の真に自由な発言と行動）は、これまで以上に厳しく取り締まられる見込みです。

残念ながら昨年に引き続きネパール情勢は問題が多く不安定で、特にチベット難民にとってますます厳しい状況です。しかし、どのようなことが起ころうとも、正しい動機を活動の中心に据えて、明るく前向きに進んで行こうと決意を新たにしております。

